れ共早速及斷候樣に与奉存候。右之趣共、夫々被仰渡候樣仕度奉存候。以上。

（寛延三年）
午四月廿六日　　御用番　山森藤右衞門

奥村丹後守殿

三九　御用地並明屋敷地形荒申間敷儀觸

御用地并明屋敷之內地形取荒、且又ちりあぐた等捨置申付、前々より御斷申上候處、一統被仰渡御座候得共、今以相止不申、以之外猥成躰御座候間、御普請會所附役人共、見合次第相とがめ候上、可及御斷候。以來御縮方之ため、急度被仰渡候樣仕度、此段御家中一統主人々々より家來末々迄、申渡候樣に仕度奉存候。寺社方・町方并地廻御郡支配共、夫々不相洩樣嚴重申渡置候樣仕度奉存候。以上。

（寶暦元年）
未六月八日　　御用番　山崎小右衞門

奥村丹後守樣

四〇　御用地並明屋敷地形荒申間敷儀觸

御用地并所々明地之內地形取荒、且又ごみあぐた持出し捨申候。日用躰之もの、并御家中小者躰之者所爲と相聞え申候。前々より御屆申上候に付、一統被仰渡御座候得共、近年別而猥に相成申候。御普請會所より役人共指出、急度相咎可及御斷候間、以來爲御縮方、いか樣に茂被仰渡候樣仕度奉存候。今般右所々掃除申付候間、猶更一統被仰渡御座候樣に仕度奉存候。以上。

（寶暦三年）
四月十一日　　御用番　菊池彌四郎

本多安房守樣

四一　御家中並町方往來之溝修覆之儀觸

御家中并町方共往來之內溝、道橋所より御修覆有之所々之儀者、尤往來相障申儀無御座候。然處に往古人々より及斷

附來候溝・埋樋又者溝蓋、近年修覆不仕所々、往來相障、火事等之節者猶更指支候條、前々之通人々より、御普請會所に相達申に不及、修覆可致候。惣而往來之內溝付申儀は、御普請會所に及斷申筈御座候。近年者猥に罷成候所々も相見え申候。前々之通相心得候樣、一統被仰渡候樣仕度奉存候。以上。

（寶暦二年）
四月廿六日　　御用番　菊池彌四郎

奥村丹後守殿

四二　犀川・淺野川川除等荒間敷儀觸

犀川・淺野川々除御普請之節は、往來之者入込不申樣に、跡先致繩張置候得共、存違之者茂有之入込、御普請之障罷成候。且又兩川共夏中諸殺生、或は川稽古人等相集、籠等踏荒申候。尤川廻爲相廻候得共、承引不仕もの有之躰に候。

一、諸方より河原之內砂利等取申候。此儀は御定之間數も有之候所、近年猥に罷成、手寄にまかせ勝手次第取申候。

一、兩川共石垣・籠之上・川道に塵芥等を捨置、不作法成仕形に御座候間、向後川中へ捨候樣に仕度候。今般御目付衆も御越候間、兩橋邊掃除等申付候に付、猥に不罷成樣仕度旨、兩川裁許與力及斷申候間、夫々急度被仰渡候樣仕度奉存候。以上。

（寶暦三年）
四月廿二日　　御用番　菊池彌四郎

本多安房守樣

四三　居屋敷に取水之川堰取拂之儀等觸

御家中之人々、用水川より居屋敷に取水、川堰仕置候所有之候に付、道筋に水溢、彼邊之人々居屋敷に相障、致難儀候段每度及斷申候。惣而往來障無之樣致置可申段、御定に御座候間、右川堰人々より取拂可申候。

一、居屋敷境、或居屋敷之內へ附渡候惡水通埋樋、形も無之所々も有之候哉、別而指支候旨、水上之人々より每度及斷申候。掘揚指支無之樣、人々相心得可申候。